



平成 29 年 11 月 14 日

各 位

上場会社名 株式会社ショクブン
 代表者 代表取締役社長 黒川真太郎
 (コード番号 9969)
 問合せ先責任者 執行役員管理本部長 田澤 友英
 (TEL 052-773-1011)

業績予想との差異及び業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 9 月 14 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成 30 年 3 月期第 2 四半期(累計)連結業績予想数値との差異(平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 4,046	百万円 △529	百万円 △549	百万円 △1,114	円銭 △116.05
今回実績(B)	4,014	△65	△83	△657	△68.51
増減額(B-A)	△31	464	466	456	
増減率(%)	△0.8	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成29年3月期第2四半期)	4,238	△67	△88	△121	△12.68

平成 30 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 8,113	百万円 △486	百万円 △529	百万円 △1,116	円銭 △116.28
今回修正予想(B)	8,074	110	71	△561	△58.47
増減額(B-A)	△39	596	600	555	
増減率(%)	△0.5	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	8,791	△27	△72	△149	△15.52

平成 30 年 3 月期第 2 四半期(累計)個別業績予想数値との差異(平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 4,041	百万円 △559	百万円 △548	百万円 △1,120	円銭 △116.64
今回実績(B)	4,010	△94	△81	△648	△67.52
増減額(B-A)	△30	464	466	471	
増減率(%)	△5.6	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成29年3月期第2四半期)	4,233	△96	△87	△109	△11.45

平成 30 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 8,100	百万円 △547	百万円 △558	百万円 △1,128	円銭 △117.48
今回修正予想(B)	8,061	52	41	△573	△61.13
増減額(B-A)	△39	599	599	554	
増減率(%)	△0.5	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	8,778	△89	△102	△160	△16.68

修正の理由

1. 第2四半期連結累計期間業績予想

当社は、平成29年9月14日付「一時金計上に関するお知らせ」のとおり、当社の平成30年3月期第2四半期中、社内調査を行ったところ、過年度に未払いの時間外手当があった事実が判明しましたので、第三者の社会保険労務士、弁護士の助言を受けた上で当社全従業員に対し、過年度未払いの時間外手当を一時金として追加的に支払う事とし、同日、「業績予想の修正及び配当予想の修正(無配)に関するお知らせ」を開示いたしました。

しかしながら、その後、平成30年3月期第2四半期の決算作業にあたって監査法人との協議を進めた結果、当連結会計年度において一時金として一括して費用計上するのではなく、過年度からの各期において費用計上することとなりました。

結果、当連結会計年度における一時金による費用計上額が減少したことにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前回予想を上回り、65百万円の営業損失、83百万円の経常損失、6億57百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失になりました。

2. 通期業績予想

通期の業績見通しは、第2四半期連結累計期間業績及び直近の実績も踏まえ、修正いたします。

なお、下記対策を実施することにより、下期の業績につきましても、前回予想を上回る見込みです。

3. 個別の第2四半期累計期間業績及び通期業績予想につきましても、連結と同様の理由によりそれぞれ修正いたします。

対策

当社グループでは厳しい経済環境を鑑み、宅配業務の見直しを引き続き推進してまいります。さらに仕入体制の改善、さらなるコスト削減を通して安定した収益の確保に努めてまいります。

また、11月より当社の主力商品であるエコクックメニューを2本立てにするなど商品のラインアップを充実させるとともに、従前から実施をしていた金券による割引制度を見直し、消費者目線に立った新たな割引制度を展開し、お客様にご満足頂くと同時に、収益構造の改善を行ってまいります。

※ 業績予想等につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上